

## 令和7年度第2回徳島県南部地域政策総合会議 会議録

### 1 開催日時

令和8年3月10日（火）午後2時から午後4時05分まで

### 2 会場

徳島県南部総合県民局 阿南庁舎 大会議室

### 3 出席者

#### (1) 政策総合会議委員

##### ① 地域住民代表委員 9名（4名欠席）

青木委員 遠藤委員 大田委員 大地委員 岸委員 坂本委員 谷委員  
中山委員 藤本委員

##### ② 県委員 1名

宮本南部総合県民局長

#### (2) 管内市町 5名

岩佐阿南市市長 橋本那賀町町長 磯野美波町副町長

### 4 会議次第

#### (1) 開会

#### (2) 議事

①令和7年度の取組報告について

②徳島県南部圏域振興計画の見直しと次年度の取組について

③その他

#### (3) 閉会

### 5 配付資料

- ・徳島県南部地域政策総合会議設置要綱
- ・徳島県南部地域政策総合会議委員名簿
- ・令和7年度第2回徳島県南部地域政策総合会議配席図
- ・資料1 徳島県南部圏域振興計画の見直し状況
- ・資料2 計画の具体的な進め方に対する御意見一覧
- ・参考 「総合県民局」及び「東部各局」の再編を行います！

## 6 議事概要

### [司会]

それではただ今から、令和7年度第2回徳島県南部地域政策総合会議を開会いたします。本日は9名の地域住民代表委員の皆様及び管内市町の皆様に御出席いただいております。今後の議事進行は会議設置要綱第5条第2項の規定により宮本南部総合県民局長が行います。

### [局長]

南部総合県民局長の宮本でございます。

本日、委員の皆様方におかれましては、お忙しいところ、御出席をいただき、誠にありがとうございます。本会議は地域目線に立った政策の立案や、地域のニーズを反映した事業を展開するため、平成17年の南部総合県民局の開設時からこれまで20年間にわたり、「南部圏域の振興」に関して活発な意見交換を行ってまいりました。多大なるお力添えをいただきましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本日は、去る8月27日に開催いたしました令和7年度第1回南部地域政策総合会議におきまして、委員の皆様や管内各市町の皆様から頂戴しました御意見や御提言、今年度の実施内容を踏まえまして、来年度に向けた徳島県南部圏域振興計画の見直し案を御説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。

すでに御承知のことと存じますが、本県では現在、来年度に向けた組織の再編及び事業の整理を進めているところでございます。詳細につきましては後ほど担当から御説明いたしますが、新たな体制となりましても、歩みを止めることなく南部圏域の振興にしっかりと取り組んでいくことが重要と考えてございます。本日、限られた時間ではございますが、皆様との意見交換を通じて今後の施策や計画のさらなる改善につなげてまいりたいと思いますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは早速議事に入りたいと思います。今回、議題1及び2につきましては関連性が深いということから、事務局より合わせて報告をさせていただきます。その後、事前に皆様の方から頂戴しました御意見等を含めまして意見交換を行いたいと思っております。時間の目安といたしましては、本日の会議は16時を終了予定としてございますので、15時半までを目途に意見交換等を行いまして、その後、本日御出席の管内各市町の皆様からも御発言をいただきまして、最後に副知事からの全体を通じてのコメントという形をお願いしたいと思います。極力多くの方からの御発言をいただきたいと思いますので、円滑な議事の進行に御協力をよろしくお願いいたします。それでは、議題1の令和7年度の取組報告及び議題2の徳島県南部圏域振興計画の見直しと次年度の取組について、各部局の部長より合わせてご報告させていただきます。計画の改正案につきましては資料1をご参照ください。

### 【地域創生防災部長】

地域創生防災部長の杉本です。よろしくお願いいたします。まず私からは防災、観光、地域振興の3つの分野について御説明をさせていただきます。資料1の左側に現行の計画、中ほどには着色をしながら改正の案を記載し、一番右側には見直しに至った理由やその概要等を記載しております。

まず1ページをお願いいたします。戦略1の「安全・安心な暮らしの実現」についてでございます。南海トラフ巨大地震への備えは一刻の猶予も許されない喫緊の課題です。地域創生防災部におきましては、2ページになりますけれども、施策の1つ目においてまず地域防災力の底上げを図っております。前回第1回の8月の会議におきまして、A委員、B委員、C委員、D委員から御提言いただきました防災士の育成と活用を踏まえまして、阿南市におきましては避難所開設の運営キットを用いた訓練を実施しました。地域の防災士の皆様の御協力をいただきまして、住民主体による避難所運営体制の構築を大きく推進することができたと考えております。来年度は自助・共助の核となる防災士の皆様への支援をさらに充実させていきたいと考えております。出前講座の素材提供や避難所開設訓練の共同実施を通じ、専門性を地域で存分に発揮していただける環境づくりを強力に後押ししてまいります。合わせて、「まなぼうさい教室」などの啓発活動も継続し、地域全体の防災意識向上を図ってまいります。

また、南部圏域の連携を強化するという目的で、今年度は圏域初となります5市町が合同で行いました災害対策図上訓練を開催いたしました。同一の被害想定下で皆様が一堂に会することで、発災直後の全体状況や共通の課題、また相互に融通が可能なリソースなどについて明確な共通認識を持つことができました。この成果を「南部防災減災対策連絡会議」にフィードバックしまして、警察、消防、自衛隊、医療、福祉、インフラ等の各機関と現場ニーズに即した一歩踏み込んだ意見交換を行うことができました。また、4町で実施しました災害対策指揮機関訓練によりまして、対策本部の実践的な指揮能力の向上も図っております。

来年度も引き続き、より具体的なテーマを掘り下げ、自治体間の実効性ある連携策を構築するとともに、各市町の指揮機関訓練を継続して支援してまいります。今後とも南部圏域が一体となった防災・減災力を高め、自助・共助・公助が三位一体となった真に実効性のある防災体制の確保に全力を尽くしてまいりたいと考えております。

続きまして7ページをお願いいたします。戦略4の「南部圏域の強みを生かした観光誘客の加速」についてでございます。観光分野におきましては、3点の取組と今後の展開について取り組みました。

8ページを御覧ください。まず1点目は地域資源の磨き上げによる魅力向上についてでございます。今年度は釣りを観光資源とする「釣〜リズム」をさらにブラッシュアップし、「釣りガール」やインストラクターがサポートする初心者向けの手ぶら体験ツアーを開催し、非常に高い評価をいただいております。また前日の「釣〜リズムフェスティバル2026」と連携し、みなみ阿波観光大使をお願いしております「赤井英和」氏をメインゲストに迎えたイベントを開催しました。海・食・「釣〜リズム」を体験していただき、認知度向上や周遊観光、滞在時間の延長につながることを考えております。こういった取組を加速させ、新たに観光需要を創出するため、来年度の令和8年計画におきましては昨今のトレンドであるウェルネスツーリズムに着目し、「釣〜リズム」や歴史探訪といった具体的な観光コンテンツを追記しております。

また来訪者の満足度を上げる取組につきましては、E委員からも御意見をいただいております。周遊や滞在期間の延長を促す一体的な施策の展開を図りたいと思います。宿泊者数の増加及び旅行消費額の拡大を図るため、計画の文言を整理しております。来年度は「釣〜リズム」の取組を海釣りだけでなく川釣りへも広げ、経済効果を圏域全体へと波及させてまいります。さらに高知県東部エリアとの連携を深めまして、県南の海を広域的にプロモーションさせてまいります。

次に2点目、観光誘客の受入体制の充実についてです。C委員からも御意見をいただいております。古民家を活用した宿作りに関する取組としまして、「先輩オーナーから学ぶセミナー」を開催いたしました。オンラインを含め50名の方にご参加いただきまして、地域の空き家問題や観光資源の活用といった課題に対し、地域住民の皆様、事業者、行政が共に学び交流する大変有意義な機会となったものでございます。また交通アクセスの課題に対応するため、徳島阿波おどり空港周辺で「みなみ阿波レンタカーキャンペーン」を実施しております。県南を訪れる観光客の動向やニーズを把握するためアンケートを実施し、その結果、県内にとどまらず県外の香川、淡路、松山などへ通り抜けてしまう方が多いことや、ビジネス目的の来訪者からはご当地グルメや仕事の合間に立ち寄れる観光スポットの情報が欲しいといった具体的な意見をいただきました。観光客を県南へと引き込むためには、高知県東部と連携した周遊観光の促進や、ニーズに合わせたモデルコースやコンテンツの造成が不可欠であると認識したところがございます。今後は日々変化する観光トレンドや事業者等のニーズに合わせた地域学習会や交流会を引き続き開催するとともに、新たな観光コンテンツの造成など地域全体の受入体制のさらなる充実を図ってまいりたいと考えております。

最後に3点目、戦略的なプロモーション活動の展開についてでございます。E委員からも御意見がありました県と民間の役割分担につきましては、プロモーションを担当する地域DMOであるみなみ阿波観光局と連携し、ローカルアンバサダーによる地元の人が自分の言葉で県南の魅力を発信する取組を進めております。さらに10月に着任した外国人地域おこし協力隊を活用しまして、外国人目線での中国語による海外向け情報発信や、香港の旅行博での県南観光のPRなど、インバウンド誘客にも積極的に取り組んでおります。今後もみなみ阿波観光局と連携して迅速かつ柔軟な情報発信を行うとともに、造成した体験型コンテンツの積極的なセールスを展開し、地域の認知度向上を図ってまいります。

次に11ページをお願いいたします。戦略6の「新しい人の流れの創出」です。このうち地域創生防災部では地域振興の分野におきまして取り組んでおります。県民局と県南の1市4町の皆さんで構成しております「みなみ阿波若者創生協議会」として進めております事業内容について御説明をさせていただきます。目的は「圏域における交流人口の拡大と人材還流及び地域活性化」です。今年度は大きく3つの事業に取り組んでおります。

12ページを御覧ください。「ひとと仕事の好循環」としまして、1つ目は若者の活動に対する支援でございます。県南地域づくりキャンパス事業として大学など8つの教育機関と連携をして、活動を通じて延べ1000人を超える学生がこの地でフィールドワークとして取り組んでおります。また8月の会議におきましてF委員からいただいた高校生の参加が将来の人材育成につながるの御意見を実行に移しまして、この秋から海部高校の皆さんによる地域活動への支援も開始をしたところがございます。この実績も踏まえまして、来年度からの計画におきましては「高校生」の文言も新たに追加し、若者が主役となる地域づくりを加速させております。

2つ目は新しい仕事の流れを作ることでございます。サテライトオフィスの誘致を積極的に進めた結果、今年度は新たに2社の企業が南部圏域に進出をいただいております。合わせて進出企業の強みを可視化した紹介冊子を作成しております。企業と地域住民との連携や、さらなる企業誘致に向けた強力なツールとして活用してまいります。

3つ目は移住の促進と情報発信の強化でございます。D委員からも御指摘のありましたSNSの活用について、今年度は実際に移住された方をライターとして起用し、移住者目線での暮らしの

リアルを発信していただいたところ、反響が大きくフォロワー数や投稿を目にした方の数が大きく増加しております。加えてG委員から御意見いただいておりましたオンラインでの情報発信強化につきましても、「みなみ阿波移住ナビ」のデザイン改修を実施し、支援制度などの情報をより見つけやすく、地域イベント情報も充実させ利便性の向上を図っております。

また移住後の定着も重要な課題でございます。C委員からも頂いておりました移住者の動向調査に関しまして、今年度は市町担当者が参加する研修会において移住者の生の事例を共有するなど、移住後の満足度向上や定着に向けた検討を行っております。今後、定住率や定住年数の把握方法について市町と密な連携のもと、実効性のある目標設定につなげていけないかと考えております。

さらにH委員から御意見いただいておりました空き家問題につきましては、タレントの「松本明子」氏を講師に招いて「みなみ阿波空き家問題解決セミナー」を開催いたしました。150名の方にご参加いただき、空き家によって起こる問題を自分事として捉え、有効活用や移住促進につなげる重要なきっかけとなりました。来年度におきましては高校生による地域活動を本格化させるとともに、移住希望者に向けたオーダーメイド型の移住体験ツアーを実施したいと考えております。また地域とサテライトオフィス企業の連携をさらに深めるべく設置しているコーディネーターの活動を強化してまいります。地域創生防災部からは以上でございます。

#### 【保健福祉環境部長】

保健福祉環境部長の小島でございます。計画の修正はございませんので、今年度の実績と今後の取組案について資料1により5点ご報告させていただきます。2ページをお開きください。

1点目として、「危機管理体制の充実・強化」の3つ目の「■」で個別避難計画についてです。保健部局の職員や民生委員、児童委員にも新たに参画いただいた「災害時要配慮者対策会議」において、専門職有志の「チームあたまん」の個別避難計画策定の事例に学ぶ研修会の開催や、次世代を担う小学生を対象とした高齢者、障害者等の疑似体験による避難所運営訓練や、人工呼吸器装着者の避難所における1階から2階への移動を想定した垂直避難訓練の実施など、より迅速かつ実効性の高い個別避難計画の策定に向けた連携体制強化等を進めております。阿南市の積極的な取組もありまして、南部圏域の策定率は今年の1月1日現在で「33.4%」となり、今年度当初の「4.7%」と比較して大幅に増加しております。

今後の県の取組につきましては、学識経験者や福祉の専門家による専門サポートチームを編成しまして、先進事例の紹介や有効手段の提案と、防災組織や福祉専門職との連携支援などの具体的サポートによります個別避難計画の作成の加速化と、計画の実効性を高めるために、各種避難訓練の実施や災害福祉支援ネットワーク会議の開催によりますDWATとの連携強化など、被災者支援に関する一体的な取組をさらに推し進めてまいります。

続く2点目として、すぐ下の「■」で災害時コーディネーターについてです。医療、保健衛生、介護福祉、薬務の4分野からなるコーディネーターを設置しておりますが、今年度は南部圏域災害時コーディネーター研修会及び調整会議の実施や阿南市の訓練に参加してペット同行避難の啓発などを行っております。今後においても各圏域、各分野の連携を深め、顔の見える関係と現場で動ける体制の構築に努めてまいります。

3点目として退院支援連絡実施率について、3ページをお開きください。一番下、KPIとして「退院支援連絡実施率90%」を掲げております。こちらは前年度の「78.5%」から上昇したものの、今年度は「79.7%」となっております。これは検査入院など連絡の必要性が低いものについても連

絡なしということで分類されていることなども影響しておりますけれども、生涯健康で安心して暮らせる社会の実現には4ページ中段にも掲げております地域包括ケアシステムの深化、推進と一体的に取り組むことが肝要と考えておりますことから、今年度は食の支援、食事摂取の支援に焦点を当てた研修の実施や、海部病院と在宅支援関係者連絡会議を共同で開催しまして、難病患者に対する質の高い在宅療養支援の提供を目指しました。今後においても連絡未実施となった背景の分析や実施率上昇を目指すとともに、制度の普及啓発、活用状況調査や研修会などにより地域包括ケアの推進を目指してまいります。

4ページをお開きください。4点目として自殺対策についてです。KPIは「自殺死亡率13.0以下」としており、今年度の南部圏域は「10.2」と目標を達成しております。これまで「けんなん“ほっと”つながるステーション事業」を中心に、県南地域の強みであります人と人とのつながりを生かした相談体制の構築を目指しており、今年度は事業名を「ひろがるけんなん“ほっと”つながるステーション事業」へと刷新し、労働基準監督署等の協力を得まして働く方々への相談体制強化を図りました。次年度につきましても人材育成、体制整備、普及啓発に取り組むことで1人で悩まない地域づくりを目指します。特に職域においては現在事業所のアンケートを実施中でありまして、この結果を踏まえニーズに応じた出前講座の開催を提案し、セルフケアやラインケアの強化を推進するなど、南部圏域が「自殺者ゼロ」の先駆的なモデルとなれることを目指してまいります。

続きまして5ページから6ページにかけて、5点目の戦略3の「恵み豊かな自然環境の保全と継承」についてです。当部では「千年サンゴ」や「伊島ササユリ」など、南部圏域の豊かな自然を次世代に継承するため、地域と連携して環境保全活動に取り組んでいるところであります。県が事務局を担っている「千年サンゴと生きるまちづくり協議会」においては、保全活動や海中環境調査を行いながら環境保全意識の向上に向けた取組や、「伊島ササユリ」については「伊島ササユリ保全の会」を中心に生育環境を守る取組について、「高校生ボランティア活動証明制度」を活用しまして高校生へ活動の周知と参加を呼びかけております。「高校生ボランティア活動証明制度」については表彰者累計「40人」を目指しており、今年度の2名を加え累計「14人」となっております。今後におきましても環境保全団体や学校などと連携を密にし、環境学習や各種イベント等を通じて将来の担い手育成や関係人口の増加に努めてまいります。保健福祉環境部からは以上です。

#### 【農林水産部長】

農林水産部長の林でございます。よろしくお願いたします。農林水産部の主な取組状況と計画の変更点、次年度の取組について御説明させていただきます。

6ページをお開きください。戦略3の「恵み豊かな自然環境の保全と継承」の「次世代への自然環境の継承」の5つ目の「■」、森林の持つ公益的機能の維持増進についてであります。県南地域は県内森林面積の約4割を占める重要な林業地帯でございまして、現在人工林の8割以上が成熟期を迎える一方で、I委員からも御指摘いただきました通り所有者の不在村化や境界不明といった管理上の課題が深刻化している状況であると認識しております。

このため県では森林の高齢化による災害リスクや境界不明による管理不全を解消するため、県、市町、関係団体で構成する「とくしま南部地域森林管理システム推進協議会」におきまして、森林所有者の意向調査や森林境界の明確化を推進しております。令和7年度の取組といたしましては、システム協議会の調査事業といたしまして約2500ヘクタールの境界明確化を実施す

るとともに、国の事業を活用し牟岐町等におきまして針葉樹と広葉樹が混在するエリアを実証地域に設定し、境界明確化の実証や広葉樹の樹種の特定を行いました。

次年度につきましては引き続き今年度の取組状況を関係機関と共有を一層図り、森林境界の明確化を進めるとともに、こうした実証地域の成果を県南地域全体へと波及させることで森林環境の保全と産業化の両立を図ってまいりたいと考えております。

次に「豊富な自然資源等の利活用」の1つ目の「■」、Jクレジットの取組でございます。県では徳島県みどりの食料システム戦略基本計画に基づきまして、Jクレジットの創出、販売をはじめとする取組を推進しているところでございます。特に林業分野におけるJクレジットは森林が持つ二酸化炭素の吸収源としての役割と、永続的に産業としての確立を図る重要な取組でございます。この制度は森林が吸収したCO<sub>2</sub>の量を国がクレジットとして認証するものであり、認証されたクレジットは企業などに売却でき、林業の新たな収入源となるとともに温暖化対策に貢献する取組としても期待されております。県では県有林で発行したクレジットの販売を進めており、販売収益の全額を森林整備に還元する持続可能な資金サイクルが構築されているところでございます。

令和7年度の取組といたしましては、南部地域の県有林クレジット147ヘクタール相当のうちの約1000トンの販売の推進を行うとともに、所有者による管理が困難な私有林につきましては「公益社団法人とくしま森林バンク」が中心となってクレジット化に取り組んでおり、昨年の7月には新たに2940トンのクレジットを発行したところでございます。

次年度も引き続き新たなクレジットの創出、販売に向けまして、まずはベースとなる森林整備やシステム協議会を通じた管理不明森林の円滑な調査に向けてより一層の支援を行うことで、外部資金を呼び込みながら将来にわたって環境保全と経済活動が好循環する持続可能な森林管理につなげてまいりたいと考えております。

続きまして10ページを御覧ください。戦略5の「農林水産業の持続可能な発展」の「攻めの農林水産業の展開」でございます。近年の資材価格の高騰や地球温暖化による品質等の影響が進行する中、南部地域の農林水産業の維持、発展を図るためには、特色ある農林水産物の魅力発信や生産体制の強化が重要であると考えているところでございます。このためまず1つ目の「■」、全国のトップブランドであります「木頭ゆず」につきましては、販売面では生産者、国、町、県等で構成する「木頭ゆずクラスター協議会」におきましてイベント参画等により効果的なプロモーションを展開しているところでございます。令和7年度の取組といたしましては、11月に高の瀬峡での「木頭ゆず祭り」や、2月に県内外でイオンと連携したフェアを開催し、ゆず絞り体験や青果、加工品販売を行うなど魅力発信を行ってまいりました。

また生産面では国内外での需要増大への対応とゆずの生産強化を図るため、那賀町の農業法人と地域の農地保全活動を行う「赤松地区農村RMO推進協議会」、いわゆる「農村型地域運営組織」でございますが、連携いたしまして美波町赤松地区におきましてゆずの新たな産地づくりを進めているところでございます。

具体的には農地中間管理機構を活用した農地貸借を推進した結果、令和8年4月より約2ヘクタールの農地におきましてゆずの栽培が新たに開始される予定となっており、RMO協議会が栽培管理を担うことで地域ぐるみでの新たな産地づくりがスタートするところでございます。この取組が県南における農業の新たな活力創出に資する先進的なモデルとなるよう、引き続き関係機関と連携し取り組んでまいります。

さらにJ委員から御要望もいただきまして、今回振興計画に新たに位置付けることといたしました地球温暖化に対応した米の生産振興についてでございます。本県の主力品種でありますコシヒカリは近年の地球温暖化に伴う品質低下や収量の不安定化が喫緊の課題となっており、新品種や新技術の導入が不可欠な状況でございます。

こうした課題に対応するため、令和7年度は主に2つの技術について現地実証を進めてまいりました。1つ目は高温耐性のある品種「にじのきらめき」の実証です。実証結果といたしまして、令和7年におきましてもコシヒカリと同等の成熟期であり、高温への耐性も確認できました。2つ目は「再生二期作技術」の実証です。この技術は収穫後の稲株から再生する芽を育て2度目の収穫を行う栽培方法で、田植えを一度しか行わないため低コスト、省力化が可能となる技術であります。今年度は阿南市中林地区におきまして国の研究機関と連携し実証を行った結果、本技術により増収することが確認できたところでございます。

次年度の取組といたしましては、1つ目の「にじのきらめき」につきましては高い収量性の特性をより発揮できるよう最適な施肥体系を確立し、さらなる増収と品質確保を両立させることで地域への本格的な普及を図ってまいりたいと考えております。また2つ目の「再生二期作技術」につきましては阿南市に加えて新たに海部地域にも横展開し、南部地域全体での技術普及を目指してまいります。

続いて3つ目の「■」の「海部の魚」のブランド強化についてでございます。海部産水産物の評価を高め消費拡大を図ることを目的に、海部郡各漁協、町、県で構成する「とくしま海部水産物品質確立協議会」におきまして、サイズや締め方等の規格を統一した魚を海部の魚に認定しPR活動によるブランド力強化を図っているところでございます。

令和7年度の取組といたしましては、10月から2月の間に5回参画いたしました各種イベントにおきまして認定魚のポスター展示やポストカード等を活用したPRを行うとともに、海部郡内の9店舗の小売店と連携し海部の魚シールを添付したPR活動など認知度向上に向けた取組を実施したところでございます。また阿南市椿泊地区に新たに整備中の「県立椿泊漁港荷さばき所」と協議会との連携強化に向けまして、2月に海部郡漁協等関係者17名による現地視察等を実施したところでございます。

次年度におきましては海部地域を中心とした水産物をこの荷さばき所に集約する輸送実証試験の取組を支援いただきまして、コスト面や品質面などの効果検証をサポートしてまいりたいと考えております。

最後に担い手の育成確保の取組でございます。農家の高齢化や担い手の減少が進行する中、将来にわたって地域の担い手を確保していくためには新規就農者等の受入体制の強化が重要であると考えております。令和7年度の取組といたしましては、まず1つ目の「■」の海部地域におきましては美波町と海陽町におきまして田植えや稲刈りなどの農作業を請け負う「農業支援サービス事業体」を2事業体育成しました。また2つ目の「■」の阿南・那賀地域におきましては農業の基礎知識や栽培技術を習得する「けんなんニューファーマー育成講座」や「トレーニングファーム」等を通じ新規就農者や就農希望者17名を育成したところでございます。

特に1つ目の「■」の海部地域におきましては人口減少率や高齢化率が県平均を大きく上回っており、地域農業の維持発展を図るためにはJ委員からも担い手の育成に関する御意見をいただきました通り農業人材の確保定着が急務でありますことから、今回振興計画へ新たに「農業法人の育成」を位置付けることといたしました。次年度の取組といたしましては、新たな農業法人の設立を支援し、経営基盤を安定させ地域の牽引役として育成することで農地維持や生産活動を担

っていただくとともに、法人が若者等の就農の受け皿としての機能も十分発揮していただけるようしっかり取り組んでまいりたいと考えております。

今後とも南部地域の持続可能な農林水産業の実現に向けまして、生産者はもとより市町や関係機関と連携を密により一層のきめ細やかな支援をしっかりと推進してまいりたいと考えております。説明は以上でございます。

#### 【県土整備部長】

県土整備部長の原田でございます。県土整備部からは1ページ、2ページをお願いいたします。戦略1の「安全・安心な暮らしの実現」、施策の方向性の「自然災害を迎え撃つ県土の強靱化の取組」についてご報告をいたします。

県土整備部におきましては切迫する南海トラフ巨大地震や激甚化、頻発化する水害等の自然災害に備え、県土強靱化に向けた道路、河川、港湾等の社会基盤整備に取り組んでおります。まず高規格道路の整備といたしまして「徳島南部自動車道徳島沖洲・阿南間」におきましては、「阿南IC」から「小松島南IC」間3.2kmが3月8日に開通したところであり、事業主体である国土交通省をはじめ事業進捗に御尽力をいただきました市町村の皆様方、関係団体の皆様方に深く感謝を申し上げます。この度の開通により物流効率化による生産性向上や渋滞緩和による利便性向上に寄与するものとして、経済、産業の発展や観光振興など数多くの効果が期待されております。

その他、勝浦川河口に位置する「津田大橋」や延長1.4kmの「新居見トンネル」など大規模構造物の工事が着々と進められております。また「阿南安芸自動車道」の進捗状況につきましては、「桑野・福井道路」におきまして昨年5月に貫通した「下大野トンネル」、同道路で最長の「長生・明谷トンネル」、桑野、新野の両ICでの盛土など全区間で本格的に工事が進んでおります。さらに「海部野根道路」におきましても用地取得が進められており、最も南に位置する「日比原・馳場地区」におきましては昨年9月に工事に着手し改良工事が進められております。

そして計画が空白であった美波・牟岐間でも事業化に向けたステップとなる計画段階評価が進められております。今後とも「徳島南部自動車道」、「阿南安芸自動車道」の早期整備に向けしっかりと取り組んでまいりますので、引き続き御協力をお願いいたします。

また県管理道路における主な取組といたしましては、災害時における人命救助や救援物資の輸送に資する緊急輸送道路や主要幹線道路の整備といたしまして、まず阿南庁舎では「阿南勝浦線」の「阿南IC追加ランプ」が3月8日に完成をいたしております。それから「桑野IC」と一般国道195号を結ぶアクセス道路の整備に向けた市道付替工事の実施、「阿南小松島線持井工区」などの幹線道路の道路改良、那賀庁舎では国道195号木頭折宇から西宇間のバイパス道路整備でのトンネル着工に向けた用地取得や取合工事の実施、「国道193号沢谷工区」などの幹線道路の道路改良、美波庁舎では「日和佐小野線恵比須浜工区バイパス道路」のトンネル整備、「海部野根道路穴喰IC」にアクセスする久尾穴喰浦線の整備など進捗に努めているところであり、引き続き強靱な道路ネットワークの構築に向けた整備を推進してまいりますので御支援、御協力をお願いいたします。

次に水害や地震、津波に備える河川や港湾の施設等の整備につきましては、阿南庁舎では那賀川の「十八女地区」の用地取得や護岸整備、福井川河口での堤防耐震補強、上流での築堤護岸整備、橋港海岸の防潮堤補強、那賀庁舎では「那賀川阿井地区」の堤防整備のための用地取得や埋蔵文化財調査、「木頭出原地区」の護岸整備や橋梁架替、美波庁舎では善蔵川の狭窄部である

県道橋の架替、日和佐川の厄除橋上流側の堤防耐震補強、「日和佐港戎地区」の防潮堤整備、浅川港海岸の防潮堤・水門整備などの進捗に努めております。また社会資本の老朽化対策といたしまして、橋梁やトンネル、排水機場などについて定期点検を実施するとともに長寿命化計画を策定し計画的に対策工事を実施しております。

今後とも南部圏域の安全・安心の確保に努めてまいりますので、御支援、御協力のほどよろしくお願いいたします。県土整備部からは以上でございます。

**【宮本局長】**

はい、ありがとうございました。次に事前に委員の皆様からいただきました計画の具体的な進め方についてに関する御意見を資料に整理してございます。まずは皆様から頂いた御意見に関しまして、各部の部長より回答をお願いします。

**【地域創生防災部長】**

まずはA委員からいただいた御意見からご回答させていただきます。A委員からは避難所における避難所環境面の充実ということで体育館の冷暖房設備の設置状況等の状況を教えてほしいということでございます。

まず南部圏域内に指定されております避難所としましては、県立の中等・高等学校と「南部健康運動公園」の管理棟などの一部施設と牟岐少年自然の家が該当しております。このうち、少年自然の家と南部健康運動公園につきましてはすでに設置が完了しております。残りの県立中等・高等学校につきましては、阿南支援学校と阿南支援学校の日和佐分校、海部高校、富岡東の中・高等学校が令和7年度に完成をしております。また那賀高校、富岡西高校、阿南光高校の宝田キャンパスにつきましては、今年度工事を開始しまして令和8年度中に完了する予定でございます。さらに富岡東高校の羽ノ浦校と阿南光高校の新野キャンパスにつきましては今年度実施設計を実施しております。令和8年度中に工事に着手した上、年度内に完了する予定と聞いております。

続きましてC委員からは、本日御議論いただいておりますこの計画については来年度中に「徳島県新未来創生総合計画」との統合が予定されているということではありますけれども、統合を見据えた優先順位の再整理や南部圏域として重点的に取り組む分野の明確化をすることにより戦略性が高まると、限られた人的、財政的資源をいかに配分し選択し集中していくか、こういった目線で発揮させることがより実効性の高い戦略へつながるのではないかと意見をいただいております。

本計画におきましては南部圏域全体のマスタープランとしての役割を担うものでございます。圏域の中には多様なニーズや課題が多く、この課題を漏れなく捉え全体の土台を示す必要があるという性質上、計画書の中で直接的な優先順位や優劣をつけることが現実的に難しいという側面があります。一方、本計画は各事業を実行フェーズに移す際、限られた予算の中から南部圏域として必要な事業予算を要求し獲得していくための強力な根拠となるものでございます。計画上は網羅的でありましても毎年度の予算要求におきましてはその時々最重要課題に焦点を当て戦略的に資源を獲得していくことが実質的な選択と集中であると考えております。

なお、現場で事業や調整業務に携わる皆様が役割を共有し、計画を具体的な行動へと落とし込みやすくなるよう予算化された重点事業やその背景にある意図につきましてはこれまで以上に丁寧な説明と情報共有に努めてまいりたいと考えております。

続きましてE委員からは、関西圏をターゲットにした企業の周年記念事業の誘致はどうかと御提案をいただいております。本県におきましては関西や関東在住の本県にゆかりのある方々と県内の企業や団体をつなぐ交流の場として、「徳島ゆかりの交流会in関西」や「東京徳島県人会総会・県人の集い」を開催しております。本県の食を扱う飲食店やものづくりを行う企業様などにもご参加いただき、人的ネットワークの拡大により地域活性化へとつなげているところがございます。県民局としましてもこうした企業とのつながりを一過性で終わらせず今後の持続的な地域活性化へとつなげることが重要であると認識しております。E委員からも御提案のありました企業の周年記念などのお祝い事を、花火やマリンスポーツ、藍染といった県南の魅力を散りばめた縁日というスタイルで企業と地元が一体となって祝うという企画は、誘客促進において有効なアイデアであると考えます。御提案を参考にさせていただきながら、DMOや関係団体、自治体等と連携し、さらなる観光誘客に取り組んでまいります。

続きましてK委員からは良好な環境の継続的な維持管理をするために、良好な環境を地域の観光推進に有効に活用することで得られた資本、人、物、資源、資金などを保全活動へ還元し、さらなる創出や継続的な維持管理につなげて好循環を目指すべきという御意見をいただいております。県民局としましても「みなみ阿波観光局」等と連携し観光によって得られた資源を環境保全へ還元する視点を持ち、次の2つの事業に取り組んでいるところがございます。

まず1つ目としましては環境保全活動そのものを観光資源化する取組でございます。県が取り組んでおります「釣〜リズム」の推進におきまして藻場イベントを実施しております。観光客に自然環境を楽しんでいただくと同時に磯焼け対策などの保全活動に直接貢献していただく取組でございます。

もう1つは将来の保全活動を担う人的資本への還元、育成でございます。「ふるさと教育プログラムツアー」としまして子供たちに地域へ愛着や誇りを育む原体験を提供することで将来的なUターン人材の獲得や関係人口の創出、人の還元を狙っております。また海のお宝探し、磯の生き物観察会としましてビーチコーミングや磯の生き物観察を通じて海ごみなどの環境課題について学ぶ機会を提供することで環境保全意識の醸成を図っております。さらにはシュノーケリング体験教室によりまして県南の美しく豊かな海と触れ合いながら生物の魅力を感じてもらい将来の担い手創出を図っているところがございます。引き続き好循環を生む仕組みづくりを検討推進してまいりたいと考えております。

続きましてD委員からは、県などの事業としましては公共性の都合上、徳島市へ偏りがちなことがいつも気がかりとなると、県の体制も変わることからより一極集中にならないように配慮を願うという言葉を受けております。産業構成の難しさという現実的な課題認識だと思えます。今回の県の体制の見直しにつきましては限られたマンパワーの中で圏域を超えた広域的な連携や専門性の高い支援を南部へしっかりと届けるための体制強化を目指すものでございます。

また本日御意見を伺っております振興計画におきましても、南部圏域にしかない豊かな自然環境や一次産業のポテンシャル、独自の歴史文化といった地域の特性を最大限に生かし、南部圏域の振興を加速させるためのものであり、これを確実に進めていく必要があります。

来年度以降の新たな体制におきましても都市部と競うのではなく都市部の機能をうまく活用・連携しながら南部圏域が独自の存在感を発揮できるような事業構築を目指してまいりたいと考えております。私からは以上です。

### 【保健福祉環境部長】

A委員から個別避難計画策定推進についての御意見を頂いております。まず令和7年度の取組ですけれども、委員から御意見もありましたように今年度阿南市においては「私の避難計画を作成しよう」をキャッチコピーとし、市のホームページによる作成啓発を行うとともに、具体的な取組としましては避難行動要支援者への郵送による本人・御家族への作成案内、また福祉施設等に在籍するケアマネージャーへの業務委託など精力的に計画作成の取組を推進してきたところであるとお聞きしております。

このように阿南市をはじめ各市町においても工夫を凝らした作成支援を展開してきた結果、南部圏域の個別避難計画作成数につきましては令和7年4月1日での139名に対しまして、令和8年1月1日現在では1037名となっております。この1年間で大幅に作成数を伸ばしてきているところであります。

また個別避難計画の実効性を高めるための避難訓練の実施につきましては、昨年度に引き続き阿南市内の関係機関等との連携のもと、災害発生時における避難所への避難行動や電源確保等の対策強化が課題となっております小児慢性特定疾病患者を対象としました避難訓練を実施したところでございます。具体的には発電機や蓄電池の作動確認や段ボールベッドの組み立てなどの生活環境設営訓練、人工呼吸器を接続した状態での担架による垂直避難訓練などを行う中で課題を再抽出して個別避難計画の修正も行ったところであります。改めて継続した避難訓練実施の重要性や地域ごとの支援体制強化の必要性を再認識したところでもあります。

今後の取組につきましては、昨年7月の災害対策基本法、災害救助法の改正に伴い、災害時要配慮者をはじめとする被災者に対する福祉的支援の充実や広域避難の円滑化など、大規模災害時における支援体制の強化が求められている中、これまで以上に個別避難計画の早期作成や市町村・関係機関等を含めた広域的な相互支援体制の構築が喫緊の課題であると認識しているところであります。

そうしたことから個別避難計画の作成にかかる令和8年度当初予算案におきましては、新たに学識経験者や福祉の専門家によります専門サポートチームの編成により、市町村のマンパワー不足を補うための先進事例紹介や有効手段の提案、避難の支援者確保に向けた防災組織や福祉専門職との連携支援などの具体的サポートによります個別避難計画作成の加速化、そして個別避難計画の実効性を高めるための人工呼吸器を必要とする方等の避難訓練の実施、避難後を見据えました医療用バッテリーや災害用トイレなどの資機材の整備、「災害福祉支援ネットワーク会議」の開催によりますDWATとの連携強化など、多様な関係者が一丸となって被災者支援に関する一体的な取組をさらに推し進めてまいります。以上です。

### 【農林水産部長】

農林水産部でございます。大地委員から担い手対策、現場におけるDX、付加価値化、販路支援及び漁協間の連携強化支援の漁業に関する点について御意見、御要望を頂いております。委員御指摘の通り、南部地域の基幹産業であります水産業を取り巻く環境は担い手の高齢化や減少、漁獲量の低迷などが進行しており、水産業の活性化を図るためには担い手の確保と生産性の向上が喫緊の課題であると認識しているところでございます。

まず1点目の担い手対策につきましては、県では平成29年度から漁業の即戦力人材を育成する「徳島漁業アカデミー」を開講し、座学や現場実習、そして漁業に必要な資格取得などの研修を実施しているところでございます。令和6年度までの8年間におきまして現在就業中の29名のうち約半数の14名が南部地域で活躍いただいているところでございます。

令和7年度におきましては15名の次世代を担う人材に対しまして南部地域をはじめとする各漁場におきまして現場実習による技術取得等に向けた研修を行っているところでございます。また独立間もない若手漁業者に対しましては就業後3年間について漁具や漁業に必要な機器など初期投資の軽減のための資材等購入支援を行うとともに、就業後におきましても水産業普及指導員が随時個別にも相談対応を行うなどフォローアップを行っているところでございます。次年度以降も引き続き担い手の育成確保に向けた支援にしっかり取り組んでまいりたいと考えております。

2点目の現場におけるDXにつきましては、県では平成30年から県内19箇所、県南地域では7箇所におきまして漁場の水温等のデータを漁業者等に即日提供可能とする「リアルタイム水質情報配信システム」を県水産研究課が運用しておきまして、出漁や漁場探索などの判断材料や魚類・海藻類の養殖管理にご活用いただいているところでございまして、より広範囲に詳細情報を提供できるよう調査地点を拡大させているところでございます。また次年度の新たな取組といたしまして魚の取引にかかる入札手続きの効率化を図るため、現在阿南市椿泊地区で整備中の県立椿泊漁港荷さばき所におきまして電子入札システムを導入し、タブレットやディスプレイによる見える化や電子入力による入札作業の迅速化などを図ることをしているところであり、今後管内漁協に対しまして横展開を図るべく導入効果などの情報共有をしっかり行ってまいりたいと考えております。

3点目の付加価値化につきましては、県南水産物のさらなるブランド化を図るため、海部郡内漁協、町及び県で組織するとくしま「海部水産物品質確立協議会」におきまして、これまでにイセエビをはじめとする7種類の「海部の魚」を認定し、規格統一による価値向上や各種イベントにおきましてポスター、そしてポストカードを活用したPRを行うとともに、海部郡内の小売店と連携したPRを実施するところでございます。次年度以降も協議会が一丸となって各種イベントでのPR活動を積極的に行い、さらに認知度アップにつながるようしっかり取り組んでまいります。

4点目の販路支援につきましては海部郡内漁協等に対し水揚げされた魚を新たに整備中の「県立椿泊漁港荷さばき所」へ輸送する実証試験を支援することとしており、今後コスト面や品質面などの効果検証をサポートしてまいりたいと考えております。

5点目の漁協間の連携強化につきましては現在海部郡内漁協、県漁連、町及び県で組織する「海部郡広域水産業再生委員会」におきまして、海部郡内の水産業の競争力強化に向けた浜の機能再編を推進する「浜の活力再生広域プラン」に基づきまして水揚げ場の集約をはじめとする取組を進めているところであり、引き続きプランの着実な実行に向けた取組を推進してまいりたいと考えております。今後とも持続可能な水産業の実現に向けまして、漁業者はもとより漁協、市町と連携を密に県南地域の漁業振興にしっかりと取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続き御提案そして御協力をいただけたらと思っておりますのでよろしくお願いいたします。以上でございます。

#### 【局長】

はい、ありがとうございました。それでは意見交換に入りたいと思います。ただ今の御意見に対する回答説明に対して、あるいは、先ほど御説明しました議題1、2の内容に関しまして、御意見、御質問等ございましたら、挙手にてお願いしたいと思います。A委員お願いします。

## 【A委員】

Aでございます。よろしく申し上げます。先ほどのご回答ありがとうございました。  
まず1点目の個別避難計画においては、本当に去年の4月に阿南市長から私も防災危機管理アドバイザーを拝命してから、やはり個別避難計画を阿南市としても一番初めに進めていこうといったような話を、今日御出席の市長とも、また徳島大学の金井准教授とも話をして進めさせていただいた次第でございます。正直に言います。めちゃめちゃ頑張りました。個別計画等の推進は喫緊の課題であり、健常者に対する防災啓発は当たり前のことであって、要配慮者に対する高齢者であったり、障害者であったり、外国人、また妊婦さん等に対する支援というのはやはり手厚いケアをするためには絶対必要であろうと考えてございます。

阿南市の取組は先ほど御説明させていただきました。プラスアルファで実は阿南市は、「私の避難計画」を作った皆様にキャンペーンで、この筒を地域共生課と協働のもとPRしております。是非ともいろんなアイデアを出しながら、市民の皆さんの意識を向上させるような取組が必要であろうかと思っております。ただ単にやってくれと言ったって現場の最前線ではやってはくれません。何度も罵声を浴びせられたし、この1年間、本当に市長も努力しましたので、そこだけはこの場で言うておかないといけないと思い、あえて言わせていただきました。1番言いたいのは命を助けるための啓発的な活動は、福祉や医療では当たり前かもしれませんが、やはり推進していく必要があるかと思っておりますので、先ほど御発言いただいたように継続して個別避難計画は進めていっていただければと思っております。

それともう1点目の、避難所における冷暖房の設備、これはもう10年前からこの委員を務めさせていただいてる時から言ってます。議事録を見てみてください。明日が3.11、東日本大震災から15年目を迎えます。やはり避難所の環境というのは譲れない。これは避難者も当たり前だけど避難を支援する側にとっても重要です。環境面はDWATとして行かせていただいた際にもそうでした。やはり環境の必要性はいろんな会議でも御発言をさせていただいている次第でございます。その中でこうやって進んできているというのを聞くととても嬉しいです。今まで防災講演で喋った時に那賀町が一番羨ましかった。那賀町に新しいホールができて冷暖房完備で行ったけども、「阿南にはなんでないんだろう」と。いろんな会議で文句を言う次第でございます。県立の方で富岡東をはじめ、順次整備が進んできていることについては本当に感謝申し上げます。

そこで次に大事なものは、戦略1でも書いていただいている「防災士の活用」です。うまく活用できる人を養成しないとイケない。阿南においても防災士の会は96名で、那賀町防災士の会も30数名おられます。防災士は増やしていくという戦略はいいと思うんです。ただ1つ提案としては、こんなに偉い人はいない。そうじゃなくて防災士を増やしてほしいんだったら、実は阿南第二中学校の学生4人が今年度防災士に受かりました。また、高校レベルになると大抵受かります。阿南光高校をはじめ防災クラブがあって活動している。やはり教育の課程の中で防災士は増やしていくべきだろうと。未来ある子供たちが5年10年経った時に防災の知識を得ておる。10年以上活動してますけれども今の中高生は優秀ですよ。防災に関しては東日本がどうっていう話じゃありません。経験してなくても知らなくても防災の知識は非常に高いと思っております。ですから防災教育に関するカテゴリーは若い世代の方に進めてほしいなと思っております。

それと最後もう1点だけ。その啓発においては実は2日前に県の方で南海トラフ巨大地震における啓発の動画を出していただいております。「安心とくしま」の方で動画を出していただい

てます。ホームページも出てます。実は私もエキストラで少し出てます。県にお願いしたいのは避難所開設を阿南市でも去年からしっかりと市長の元で進めさせていただいている。那賀町にも実はアドバイザーで行った時に避難所開設を試したんです。どこも100人・200人規模でやっています。そうするとやはりいくら防災士であってもできないんです、初めてだから。カード見てあなたやりなさい、と言われてもできないんです。だからこれは前回阿南市で羽ノ浦でさせていただいた時に、県のほうに反省会の時に動画でやってみたらどうかと意見は伝えております。是非とも次年度予算を取っていただいて、その動画を作ってください。それを使って指導します。やらせてください。そうしたら阿南市と那賀町には少なくとも私が行きますので啓発活動をさせていただければと考えてございますのでどうぞよろしく願いをいたします。発言は以上でございます。

#### 【局長】

非常に熱のこもった御意見をいただきました。県側から回答ございますか。

#### 【地域創生防災部長】

防災の方で頂いております。まず防災士の活用についてということで、先ほど他の説明でさせていただきました高校生を活用したというところで、今年ちょっとチャレンジしたんですけども、海部高校の生徒たちに地元の小中学校に対して防災の教育を指導してもらったと、高校生から地元の小さい子供たちに、というような取組をしております。まさに今のようなところから意識付け、あと当たり前のこととしてそういったことを認識していけるような形に少しでもなればと思っております。またよろしく願いいたします。

また避難所開設の方も先ほどお話ありましたように羽ノ浦での開設の方にも我々も一緒にさせていただいたところです。我々も避難所開設訓練については、数年前から力入れてやらせてもらっていますので、一緒に圏域全部に広げていきたいと思っておりますので、是非とも御協力いただければと思っております。よろしく願いいたします。

#### 【局長】

それでは、C委員お願いします。

#### 【C委員】

先ほどのA委員の御発言を聞いて思ったんですけども、去年私も防災士を受講させていただきました、避難所開設キットでワークショップをいたしました。2日間にわたる講習で非常に有意義だったんですけども、一番印象に残ったのがその避難所開設キットを使ったワークショップです。座学がほとんどでしたので、やはり実態として動けるかどうかというのが一番大事だろうというのはその時にも私も感じて、無事に合格をいたしまして那賀町の補助金をいただきました無事に防災士となることができました。ありがとうございます。県としてもこういうことを推進していかないと、南海トラフもそうですし不測の事態は今後起こる可能性が高いと思いますので、A委員の御意見、私もそのまま参考にさせていただければと思っております、これからは後輩としてよろしく願いいたします。

私の方がいただいた意見なんですけれども、D委員の意見ともちょっと似てると思うんですね。県の体制が変わるとということで南部地域の方が漠然と不安に思ってるのは、徳島市に一極集中、D委員が書かれてた通りです。南部地域が置いていかれるんじゃないかという不安を漠然と県民は抱えてるところで、ただ実際問題として人口減少率とか財政的な制約というのはどうしてもあると思いますので、優先順位は確かに定められないと思うんです。ただ一般

的に見ると、網羅的に色々上げてるけど実際に動くのは誰ですかというところが、A委員ともやはり意見が同じで現場の人間をどうやって活用するかというところが、行政側と民間連携というところなんですけれども、そこでどういう風にお考えなのかなというところなんです。

実際問題として南部総合県民局さんの人員配置がどうなるかは分からないんですけれども、じゃあ実質は人が減りましたと。で、実効性のある計画をするにあたって担当者はどうなりますか。民間の人との関わりはどのような風になってきますか。私は那賀町でこの「那賀地域価値創造協議会」という所有者不明土地とか不動産問題を扱う協議会の理事長として今活動しているのはやはりこの人的な問題、人が足りないということ。で、専門知識もどうしても不足してしまっている。では民間の方が今回こう行政再編の形になって人が足りなくなった時に民間をどうやって活かすのかと。A委員のようにはっきりした御意見をお持ちで実績もある方っていうのをどういう風に活用していくか。私もそうです。不動産に関しては知見がある人間だと思っております。こういう人間を行政側としてどういう風に生かしていただけるのかっていうところがやはり今日お聞きしたいところです。その中で優先順位をつけにくいとは思いますが、人が足りなくなっていくのは自明の理です。で、どういう風に描かれていくのかなというところが、予算は取っていただくのは当たり前とは思いますが、そこがちょっとやはりもう少し踏み込んでお聞きしたいなというところなんです。以上です。

#### 【地域創生防災部長】

御意見ありがとうございます。おっしゃる通り、今回県の組織の体制の改編というのがまず人口減少が進む中、ということは県の職員も少なくなる中で、県民サービスを維持継続していかなければいけないという前提での対策として取り組まれているものがございます。その中で優先順位等の話ありますけれども、いかに県職員自体が減っていく中、地元で御尽力いただいている方々と共に手を携えて、より効果的などころを目指して何でもかんでもやるじゃなくて、先ほど委員の方からもありましたように選択と集中だと思います。そこをしっかりと見極めることがまず第一で、その考え方を共有させていただいた上で一緒に絵を描いていきたいなと思っております。具体的なその分野分野での取組方もあるとは思いますが、まずこの考え方としましては、県としてはこういったものだとは認識しているところでございます。引き続きよろしくお聞きしたいと考えております。ありがとうございます。

#### 【局長】

それではE委員お願いします。

#### 【E委員】

質問のところをさらにその意義を説明させていただければと思っております。まずA委員に倣いまして、自分がリーダーシップを取れるところというところで考えてまいりました。私は花火屋なので、花火でどうリーダーシップを取っていくかと。まずは花火というものは江戸時代から続いてきたものなんですけど、商いがうまくいけば花火を上げると。船が5両だった時代に花火1発が1両だったと。商いで儲けた江戸の粋な商人は花火を上げてみんなで楽しんだと。こういう風な文化というのが今も続いてきている。花火はすごく粋なものだという風に思っています。商いがうまくいけば花火を上げたいという日本人の本質的なところというのが実は隠されてるんじゃないかなと思っております。それとつなげて、地元で「阿南の水神さん」と言われる花火大会、上流の部分私たちが担当してはいるんですが、「岩脇祭り」と言われてます。実は非常に実行委員のメンバーが高齢化をしてしまって、もうお金を集めるとか書類を出すとかっていうのが難しいというところで若いメンバーが引き継ぎをしました。屋台も集まらなくなっていたよ

うなお祭りに「夕暮れマーケット」を連れてきて、キッチンカーを中心とした夜店を開いて協賛企業を募って花火大会をやるという形になった。協賛企業は特別な席があり、優先的に商品が前もって予約できる、そういう風な特権をつけてお金を集めてきてそれを花火の代金にするという形で行いました。その結果、異常な盛り上がりを見せてまして、地域の方はもうこれがラストだろうと毎回言われていますが、まだ終わらない形で続いています。

これをつなげていくと縁日という形で企業協賛を地域の人と祝うような形というのが実施できるのではないかなと。例えば社員さんが100名いる会社で、阿南にゆかりのある会社が県南に来て縁日を祝うと。そこに「夕暮れマーケット」が出展する。そして地域の方がそこに花火と「夕暮れマーケット」を楽しみに来る。社員さん100名の方は約3000円程度のチケットが配られていて自由に買い物ができるようになって最後に花火を楽しむことができると。そうすれば約1100人の来場者で縁日を祝うことができると。これは100人で祝う花火よりもより喜びが大きいんじゃないかと思います。

これは自分がリーダーシップを取ってできることになるかなと思いますが、やろうとすると結構ネックがあります。例えば国交省の場所でやろうとすると河川でやる時には書類が大量に必要で、CADで図面を作成が必要になってきたりします。ただ、国交省の方も積極的にその河川が使用できるように、よりライトに地域の方が使えるように簡易化を図ってまして、ただその条件として地域の河川の清掃などが含まれていますが、そういう風なコミュニケーションをとってより有効的なスペースの活用につなげようという動きが進んできております。県の場所も堤防があり海があり川があると。その場所がその縁日として非常に使いやすくすることができれば、徳島市に集中していると、県南はスペースがありますのでそういう風なスペースや体験というものを合わせていくことによって、企業の周年記念でまたこれをつなげていけば将来的にインバウンドにも受け入れがすごくスムーズにいくんじゃないかなと思ってます。実際に6月には台湾企業の周年記念の花火を徳島で上げる予定があります。そのような形で今海外からは日本で周年であったり企業の旅行をしたいというニーズが広がってきております。そこに合わせていく上でも、関西圏や県外の企業を中心にまずは縁日の実施を積み重ね、将来的にはアラブの石油王がプライベートジェットで飛んでくるような夢のある企画が皆さんの協力あればできるんじゃないかなと思っております。また御意見いただければと思います。以上です。

#### 【地域創生防災部長】

ありがとうございます。まさに本県今年から県にゆかりの本県にゆかりのある方にもちょっと声をかけて色々な各業態からも出向いて行ってという形で、東京県人会とか先日ありました関西での交流会、これも300人400人規模でお集まりいただいて交流を持たせていただいているとのことです。まずは地元のそういった地元ならではの催し物と合わせて、まずはその今の岩脇の花火大会、私も参加させていただきました。非常に楽しいイベントになっておりまして、こういったものがどんどん広がって県外からも呼んできて、御提案の企業の縁日でゆくゆくは外国からインバウンドという形で広がって行ってまさに夢のあるものが持てればなと思っております。まずは一つ一つ皆様方にも御協力いただきながら作っていったらなと思っております。よろしく願いいたします。

#### 【局長】

それではD委員お願いします。

### 【D委員】

ここでの肩書きは図書室をやっている「ひらの図書室」のDとなっているんですけども、私からは2点ありまして、ここに質問として書かせていただいたところで、やはり県のプロポーザル事業に採択される方のところ、やはり徳島市内のメンバーが多くて、活動も南部で何か開催するとなると頻度が少なくなったりとか規模が小さくなったりとかすることがとても多くなります。なのでいろんな難しさあると思うんですけど、やっぱり県南っていろんな課題がたくさんあると思うので、そこを強化することとして必ず何回か開催するとか、県南の方でお金の方を使える分を少し大きくして必ずしっかりやってもらおうとかそういう風な声かけ的なことをしていただけるとすごいありがたいなと思いました。

もう1点は私自身今徳島県の地域おこし協力隊の卒業生で作るネットワークというものに入っております、その一般社団法人なんですけれども総務省から作りなさいという風でできたもので、徳島県の協力隊の研修だったり自治体相談だったり色々回らせてもらっております。県の場合は市町村に委託する形であったりとか会計年度という風な形で協力隊を受け入れまして、企業に入っていることが結構多いんです。ですがそこで活動をしていると「私たちはどこを目指して頑張っているんだろう」とみたいな声が聞かれます。私自身も協力隊の集まりを企画していたことが現役時代にありましたが、その受け入れ先の団体のお手伝いをするのが協力隊の活動ではないし、企業が絶対というわけでもないし、それは隊員とその受け入れ団体それぞれの事情ではあるんですけど。

今日のお話とかを聞いていて勉強になるし、協力隊自身がやっける活動もたくさんありました。なので是非、協力隊を受け入れている自治体さん、具体的にその自治体の担当課長さんや町長さんの口から、その隊員の方々、受け入れ団体、あと担当職員さんに対して思いや熱量を持って伝えていただけると、協力隊本人も方向性が理解でき脱線やトラブルも減っていくかと思えます。なので各市町村さんごとに事情もあるかと思いますが、たくさんコミュニケーションとってより良い協力隊制度にしていいただければなと思いました。以上です。

### 【宮本局長】

ありがとうございます。御提案のような形でいただきました。次にK委員お願いします。

### 【K委員】

私は自分の仕事が自然環境に関することとして、生物多様性の保全ですとか活用を通じた街づくりを自分の仕事にしています。徳島県の自然環境はとてもポテンシャルがあると県外の方から見るとよく言われます。山、里、川、海全て揃っていて、夏はスキューバができて冬はスキーまでできると、こういった県はなかなかないという風に言われます。そういった自然環境があることを十分生かしきれてないのではないかなと残念な思いをしています。私は自然環境の保全で「伊島ササユリ保全の会」の事務局もしておりますし、生物多様性の戦略のサポートなんかもしています。そういった一人のプレイヤーとしてよく思うのは、活用はすべきだと思うんですけども、その活用する主体と保全しようとする、どちらかというところと研究者、科学的な方々との結びつきがまだうまくいってないのかなという風に思うところがあります。

例えば徳島県は「徳島県の活かしたい生態系リスト」というのを持っています。そういった「活かしたい生態系リスト」を県として公式に持っているというところは、私東京都の方にヒアリングを受けたんですが、こんなところはないと、そういう風な活かしたい生態系、自然環境を県として明らかにできていることは素晴らしいことだから、それをいかに保全・活用していくかというのを次の段階に進めていければいいんですね、という話もしたりをするんですけども。例えばこの県南域もですね、本当に活かしたい生態系がたくさんあるのだけれども、どう

してもそれが普及啓発、教育活動にとどまってしまっただけでその次の事業化というのがなかなか結びついていかないという風な課題があるのかなと思っています。

なので、例えば、先週末に徳島県の生物多様性フォーラムがありまして、そこでテーマにあがったのが希少種の保全というとても難しい項目なんですけど、取り上げられたのが那賀町のツキノワグマの取組ですね。四国はツキノワグマが今27頭程度、もう絶滅危惧種と。本州にいるツキノワグマの問題とは全く違う問題が四国では起こっていて絶滅しそうだと。しかしそれは逆に見ると地域の資源であってツキノワグマを守ろうとする取組を世界が注目している。世界から人が那賀町に訪れてクマ祭りで保全をどうしたらいいかって話し合いがされていると。そういった事実を是非、県南域みんなが知っていただいて、それが資源として世界の方が注目できるものなんだというのを共有できるような場がどこかできればいいなと思ったりするところなんです。なんとかこの自然環境を保全と活用をうまく両立していけるようなそのつなぎの場であるとか、事業者の方々との協働によるルール作りですとか、そういったものが進んでいくといいなと思います。よろしくお願いします。

#### 【保健福祉環境部長】

K委員には、前回第1回の会議の方で、「フェノロジーカレンダー」の御提案をいただいております。先ほどの御意見にもあったように、県南の豊かな自然を活用していくための1つのツールとして「フェノロジーカレンダー」は十分有用なものではないかということで、検討させていただきたいと思います。ちなみに、南部圏域では多様な文化とか個性豊かな自然が広がります。春でありますと、美波町の厄除けで有名な薬王寺で桜の名所で見頃を迎えます。県南の地域では4月には温暖な気候を生かした早場米の田植えが始まりますとか、夏になりますと7月ぐらいには田井ノ浜海水浴場などの多くのビーチがオープンします。みなみ阿波の各地で海祭りやイベントなど開催され賑わっております。秋には秋祭りが開催され、壮年神輿だったり獅子舞が地域を練り歩いたり、伊勢海老、アワビ、アオリイカなどの旬の海産物の食の宝庫となっております。冬には正月飾りや門松を燃やして悪病災難を払って豊漁を祈願するといったような火祭りであったりとか、寒ブリやフグなどの脂が乗った魚介が美味しい季節でもあります。

自然環境に目を向けますと、県南地域では室戸阿南海岸国定公園に指定された美しい海岸が広がって、牟岐大島の巨大コブハマサンゴ、いわゆる「千年サンゴ」をはじめとする希少生物が生息する豊かな自然を有しております。こうした多くの民間の環境、文化、環境保全団体による活動も活発に行われておりまして、1つのツールであります「フェノロジーカレンダー」の内容等も多岐にわたって、観光資源化には南部圏域全体の噛み合わせた横断的な知見の収集だったりとして活用できるような内容になるのであるかなと考えております。

4月から組織再編を控えておりますけれども、環境部局としましては、いわゆる行政ですので、営利目的での、お金取ってってというような制約が色々ございます。なのでどちらかというと人材育成だったり環境保全の活動に主眼をおいて、関係人口を増やしていくとか、小学生などの若い世代を対象とした学習イベントで環境教育と、イベントで人を呼んで将来の担い手になっていただくというような取組をしております。環境保全の人材育成で、観光で人を呼ぶ云々のPRにつきましては観光分野の方が所管しておりますので、4月以降は県民局という枠組みではございませんけれども、それぞれの担当部局が連携してそういった取組を一層進めてまいりたいと考えております。

### 【局長】

それでは、ちょっと時間となりましたので、全ての皆様の御意見をいただく時間が取れないところで大変恐縮でございますけれども、時間の都合上、意見交換をここまでとして次の議題の方に移りたいと思っております。先ほどのお話の中にも出ました、D委員、C委員の方からもありました来年度以降の県の組織の改編に関しまして、議題の3、その他としまして冒頭でも触れましたけれども、県の組織改編及び今後の県南振興のあり方につきまして、現時点の状況についてご報告させていただきたいと思っております。

### 【地域創生防災部長】

それでは「参考」とさせていただいております資料を御覧ください。現在、徳島県では迫りくる人口減少社会を見据えまして、将来にわたり質の高い行政サービスを維持確保するため全庁的な政策推進体制の強化に取り組んでいるところでございます。具体的には資料にありますようにこれまで県民局に分散していた予算・政策立案機能を本庁へ集約するなど、県庁と現場の役割を明確化することでよりスピーディーな行政運営体制の構築を進めているところでございます。

見直しの具体例をいくつか申し上げますと、上段の右側にもありますように1つ目としましては県税局の設置としまして県税の現場部門を一元的に執行する「県税局」を設置します。

2つ目としましては県民サービスや市町村連携等の最前線となる総合窓口である「地域連携事務所」を設置いたします。

3点目はオンライン窓口機能の強化や総務事務機能の集約化による業務執行体制の徹底的な効率化などが挙げられます。こうした全庁的な機能集約と現場窓口の再編という大きな流れに伴いまして現在の体制にも抜本的な見直しが入ることとなっており、現在の南部総合県民局という組織は今年度末をもって廃止となります。次年度からは県庁各部局の出先機関という位置づけで先ほど説明させていただいたような事務所、窓口が設けられ新たな体制のもとスタートする方針となっているところでございます。

組織の形は変わることとはなりますが、本日皆様に御議論いただき見直しを行いました「令和8年度版徳島県南部圏域振興計画」に基づきまして、引き続き南部圏域の振興にしっかり取り組んでまいり所存でございます。なお本日御議論いただきました「徳島県南部圏域振興計画」につきましては令和8年度中に県全体の上位計画であります「徳島県新未来創生総合計画」へ統合される予定でございます。これによりまして皆様と練り上げた施策が県全体の最重要課題の1つとして位置づけられ、一本化による進行管理の徹底によりこれまで以上に強力に推進してまいります。また皆様に委員をご就任いただいております当会議につきましても南部総合県民局の組織体制が見直されることに伴いまして1つの区切りとさせていただきます。

本日皆様から頂いた貴重な御意見、御提言をしっかりと踏まえまして、新体制のもとで効率的かつ効果的に南部圏域の振興を図るとともに来年度から始まる計画の統合作業に確実につながってまいりたいと考えております。委員の皆様のごこれまでの多大なる御協力に事務局として深く感謝申し上げます。報告は以上でございます。

### 【宮本局長】

それではここで管内の各市町の皆様からも御発言をお願いしたいと思います。まずは岩佐市長様、お願いいたします。

### 【岩佐阿南市長】

阿南市の岩佐でございます。先ほどから委員の皆さんからもいろいろな振興策等のお話もいただきましてありがとうございます。まず危機管理の体制というところではA委員の方からも熱いプレッシャーもいただきましたが、阿南市の取組なんかも本当に全部言っていたところで大変ありがたいんですけども、阿南市も海にも面しているし那賀川が流れているということで、やはり危機管理体制、安心安全というのが第一だと私も思っておりますししっかりと体制整備を進めているところであります。冒頭、御紹介もいただいたんですけども個別避難計画についても徳島県と共同で募集して採択されました内閣府の「個別避難計画の作成モデル事業」ということを進めさせていただきました。今年度当初は「0.8%」の作成率だったんですけどもそれがA委員の尽力もありまして「36.3%」まで上昇したところであります。

さらに御紹介もいただきましたけれども避難計画のステッカーキャンペーンということで、作ったものを自身も理解してもらい、また災害が起こった時に支援してくれる消防団の方とかがその人にあった支援方法がわかるように、例えば冷蔵庫とかに入れていただいてそこにシールを貼っておくと、そこを見てその人に対してどういう支援が必要なのかということが分かっていただけるようなキャンペーンも行いまして、単に作成率を上げたというだけではなくてその実効性を高めていくということがこれからも必要だと思っておりますし、さらなる個別避難計画の作成率の上昇等にも来年度つなげていきたいと思っておりますので、またアドバイザーのA委員からもいろんな御支援をいただけたらと思っております。

それともう1点、避難所の環境整備ということで空調のこともA委員も以前から課題だという風に言っていておまして、今年度小学校4校の空調エアコン導入ということでその設計に着手いたしまして、来年度その整備を行っていく、それと同時にまた新たに数校の設計に入っていくということも行っていく予定としております。この環境整備、トイレの確保等も含めてですけども、やはり国の方で延長になりましたが緊急防災・減災事業債の延長、またそれに対しての残りの3割のところへの県の支援というところが我々としては大変ありがたいのでスピード感を持ってやっていきたいと思っておりますが、一方で空調なんかも本市は小中学校の学校数も多い、また大規模な体育館等が3箇所ありますけども、どこも空調が入っておりませんので、そうしたところもスピード感を重視しつつ。ですが、それだけの予算も必要になってまいりますし、加えてどうしても年度ごとに設計をやって次の年に整備をしていくということで2年とかかかる。今年度設計やったところは来年度議会でお認めいただいたら整備に入っていくのですが、やはりスピード感といっても通ってから整備になる今年の夏には使えないと、特に小中学校だと学校もあるということなのでその間の工事ということも制限が出るということもありますので、移動式・可搬式のものとかいろんな観点で進めていく必要があるのかなと思っております。本市も令和10年度には体育館の空調整備率を「36%」ということを目指して今取り組んでいるところでございますので、またいろんな御支援をいただきたいと思っております。

それとK委員さんからも県南の魅力、自然環境の維持管理、それを観光振興にということところで、この間も阿南のフォーラムをありがとうございました。本当に加茂谷には貴重なカタツムリが生息しておりますし、お話いただきました「伊島ササユリ」も本当に貴重な種類となっておりますしその保全活動もだんだんと民間企業さんにも協力いただけるような形に広がってきておりますけれども、やはりそこからその魅力ということをより発信をして、観光等にもつなげていく必要もあろうかと思っておりますし、途中若干話変わりますけどいろんな形でボランティア

の方も入ってきていただいておりますので、いろんな方々を巻き込んだ形で自然環境の保全等にもつなげていきたいと思っております。

その自然も含めてなんですけれども、県南の魅力ということでは私理事長もさせていただいておりますけれども「みなみ阿波観光局」でもいろんな発信等も行っているところですし、昨年の4月では観光振興計画の中で1市4町連携での地域活性化を目指す観光振興としてこの「みなみ阿波観光局」が担うべき役割なんかも明確化をしたところでもあります。たくさんの観光資源と言いますかおすすめのところはあります。それをどう発信してどう誘客につなげるかということも大変必要だと思っておりますし、その点で例えば交通機関というのが弱いところでありまして、ただ先日南部自動車道も1区間開通をしたということもありますので、そうした点も踏まえてより多くの方々に県南に来ていただけるような動線を作っていくということも大変重要だと思っておりますし、もっといろんな資源の掘り起こしをやってそれを表に出すことが必要だと思っております。

阿南市には自然以外にもやはり文化面でも本当にいろんな面白いコンテンツがたくさんあります。本市も和歌山県の高野町さんとも連携をさせていただいたりというようなこともありますので、そうした歴史、例えば先々週に阿波公方のフォーラムを開催をしましたが、足利第14代将軍が阿南から出たということも地元の人が十分知らないところもありますので、そうした外に対して出すのも必要なんですけれども、自然も文化も食もそうだと思うんですけども、やはり地元の今いる子供たちからそうしたものを誇りに思われる、プライドに思ってもらえるような取組ということも必要だと思っております。

その中で先ほどE委員からの話もありましたけども花火もそうなんですけども、そうした地元のすごさということを親世代がしっかり誇りに思って、「何もない」じゃなくて「すごいものがいっぱいあるんだよ」ということをどんどん発信をしていきたいなと思っております。

加えて、1市4町で定住自立圏も結んでおりまして、今年に入りまして医師の確保とか公共交通の維持確保ということで橋本町長もいらっしゃいますけども、4町長さんとも連携しながら取り組んでいるところです。これも令和9年度から第3次の「南阿波定住自立圏共生ビジョン」ということでその策定に向けて、今いろんな意見を踏まえながら実効性のある計画の策定に進めていきたいと思っておりますので、またいろんな形で県の方にも御協力・御支援いただけたらと思っておりますのでよろしく願いいたします。

#### 【局長】

続きますして橋本那賀町長さんお願いいたします。

#### 【橋本那賀町長】

いつも大変お世話になっております。那賀町長の橋本でございます。委員の皆様には本当に色々な意見を出していただきましてありがとうございます。また、県には日頃から大変お世話になっております。冒頭、やはり危機管理が重要であると思っております。先ほどA委員からもありましたが、東日本大震災から15年ということで、個人的な話で申し訳ないのですが、東日本大震災が起こった時に私は東京におりまして、本当に古いビルの5階か6階にいた時に大きく揺れました。その後、山手線の北の方だったのですが、宿が新橋だったのでだいぶ下の方まで歩きました。その時に本当に大変なことが起こったのだなと考え、今も思い出しております。やはりその対策についてはしっかりやらなければいけないということで、個別避難計画も町でやっているのですが、今日、地元新聞には事前復興計画ができていないのではないかと書

かれておりました。やはり1市4町の中では唯一海がない町ですので、どのように事前復興計画を作っていくのかということで、県のガイドライン等も見させていただいておりますが、なかなか担当が専門的ではないため、どこまで落とし込めるかと個人的にも色々考えているような状況です。

また、那賀町はいつも言っているように琵琶湖や淡路島、東京23区よりも広い町で集落が点在しているため、それぞれの地域で色々な対策が必要なのだろうということで、スターリンクも7つぐらい、WOTAも2台入れております。今議会で審議いただいておりますが、水道水を浄化する機能や調理器具を載せた軽トラックを予算化しようとしております。トイレカーについては森林組合の方で軽トラに乗るものを入れていただいております。つい最近、これも県にお世話になって入れたと思うのですが、やはり那賀町は道が良くないので、あまり大きい車を入れても入っていけるところが少ないということで、そういったものも活用しながらしっかりと住民の安全・安心を守っていかれたらと思っております。

また、避難所のQOLについて、A委員からも言っていただきましたが、驚敷に大きな体育館ができて、そこは冷暖房をガスで行い、停電になっても動かせるということで、その次に相生地区の方で交流センターのようなものを作り、そこもガスで冷暖房をするということで完成しております。今年度中には、驚敷で体育館の冷暖房ができたので、相生地区と木頭地区の体育館を冷暖房完備し、もうすぐ完成します。来年度は残った小中学校3つについて設計・施工という形で予算化させていただいております。そういった形で住民の方には不便のないようにしていきたいと思っております。事前復興計画については、県に色々御協力いただきながらどうしようかと考えておりますので、新年度になって御相談もさせていただきたいと思っております。

また、高校生や大学生、もちろん小中学生もそうですが、色々な若い力をいかに活用していくかということで、自分から地元の驚敷小学校などの小学校へ出前授業に行き、私自ら地域の話や防災の話を見せていただいております。高校生にも色々なことに取り組んでいただいておりますが、私自身の母校が東京農業大学ということで、今年度から東京農業大学と連携をして学生さんに2週間ほど入ってきていただき、色々な課題に対応していただいております。秋口にあったのですが、そのうちの1人が「もう一回那賀町に来たい」ということで、2月中旬から3月中旬、今週末ぐらいまで1ヶ月ほど滞在して、色々なことをやっていただいております。また来年度もこれを発展させて、今度は那賀町の地域のお祭りで大学生に何か出していただくなどやっていきたいと思っておりますので、色々なキャンパス事業等でお世話になればと思っております。

防災士については、C委員からもありましたが、那賀町でも色々な補助をさせていただき、少しでも多くの人に取得していただきたいと思っております。

また、県の方からもJ-クレジットやカーボンニュートラルという話がありましたが、これは前の坂口町長の時から話をしておりました。那賀町は森林が95%あり、町としてはやっていないのですが水力発電を県と四国電力で行っていただいております。そうすると二酸化炭素をたくさん吸収している町なのだろうなど。これをどうやって那賀町のPRに繋げていけないかと考えて、環境省の予算を取ったりしてPRできる手法はないかと考えております。

また、K委員からもありましたが、ツキノワグマや生物多様性、これは非常に重要なことだと思っております。東北など色々なところで不幸な事故が起こっております。それを那賀町で、四国の中で起こさないようにするにはどうしたらいいのだろうか、森林の作り方など、特に本当に人工林が多いのです。那賀町は95%が森林で、その70%強が人工林になりますので、本当に木が育たないようなところまで土を持って行って木を植えたという先人の話がありますが、それをいかに生物多様性が発揮できる町にできるのかというのを改めて考えさせていただいております。来年度は強度間伐やモザイク状の間伐を行い、広葉樹の導入を図るような試験的なことも始めていきたいと思っております。

あとは、人材育成と人材確保が産業界にとっては必要なのだらうと思っております、今日も農業の課長と話をしておりました。私自身もそうだったのですが、父親が林業や農業をやっていて、「お前は大学に行きなさい、公務員になりなさい」と言われて公務員になったのですが、親からそう言われると農業を継ごうという気にならないのだらうなと思っております。やはり農業は儲かる、水産業は儲かる、林業は儲かるということを、以前に林業の亡くなった大先輩が「林業をやっているもポルシェには乗れるんだ」と言われていたように、そういったことを見せるのだとおっしゃる方がおられまして、それはその通りなのだらうなと思っております。

そういった環境をいかに町としてバックアップしていけるかというのを考えておりますので、県におかれましては色々なところで御協力をいただきたいと思いますと思っております。また、体制については、私自身もアレですが、県民局ができる前に戻るのだなというのが感触でありましたが、前にはなかった「地域連携事務所」ができるということです、本当に期待をしておりますし、一緒になって今後とも、委員の皆様、住民の皆様ともしっかりやっていくのですが、県また国とも連携してやらせていただきたいと思いますと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。以上です。

#### 【局長】

続きまして、磯野美波町副町長さんお願いいたします。

#### 【磯野美波町副町長】

美波町副町長の磯野でございます。大変お世話になっております。私の方から少し、徳島県にお願いや要望的なことになってしまうのですが、来年、美波町では「ワールドマスターズゲームズ2027関西」が5月の22日から2日間でトライアスロン、アクアスロンが開催されます。この大会については国際大会ということで、外国人も含めた大規模な大会になるわけですが、美波町は小規模な町でございますので、対応に苦慮することが考えられます。今、準備室を設けて準備をしているわけですが、そういった点において徳島県におかれましては引き続きの格別の御支援をお願いしたいと思います。

それから、県南の観光振興についてでございます。今回の振興計画の中にもございますが、美波町では昨年、「うみがめ博物館カレッタ」のリニューアルオープンを行いました。またそれと同時に、「みなとオアシス」の登録も行っております。こういった資源をさらに活用していただいで、観光資源として県南が連携した支援に活用していただければと思っております。

それと、この会議でも多々出てきました防災・減災対策でございます。美波町においても、県下で最大の津波高があるというところで、個別避難計画であったり、事前復興まちづくり計

画というのを現在進めているところでございます。高台の整備事業も、ハード面ではございますが、令和9年度末までの完成を目指して今進めているところでございます。これにおいても、防災・減災についてはハード・ソフト両面で使っていかなければなかなか対応できないというところで、県の方には図上訓練であったり様々な補助事業も用意していただいて、非常にありがたく活用させていただいているところでございます。ただ、小さな自治体では対応できないような点、広域避難などですね。そういった面においても色々御支援をいただいているところですが、阿南市や那賀町にもその時にはお願いというか御支援をいただくわけですが、そういった面についても引き続き支援をいただければと思っております。

最後に道路関係なのですが、県南部のさらに南の牟岐、海陽については、道路整備が進んでいるのですが、まだ遅れているというところでございます。一昨日には徳島南部自動車道の小松島南～阿南間が開通したということで非常に期待しているところでございますが、美波・牟岐間の計画段階評価の早期完了や、海部・牟岐間の早期の事業化についても引き続きの御支援をお願いしたいと思います。私からは以上です。

#### 【宮本南部総合県民局長】

各市町の皆様ありがとうございました。  
それでは最後になりますが、志田副知事より総括のコメントをお願いしたいと思います。

#### 【志田副知事】

今日は皆様方から貴重な、また積極的な御意見をいただきましてありがとうございます。色々な御意見をいただきましたけれども、まずA委員からいただきました、以前から言われております避難所の空調整備についてですが、A委員から叱咤激励されたこともありまして、県立高校、特別支援学校の避難所となる体育館につきましては、来年度、令和8年度の予算で100%に仕上げるということでやっております。市町村の小中校の関係も、県の方で緊急防災・減災事業債を利用した場合の支援措置を講じまして進めているところでございますので、引き続き市町村と一緒に取り組んでいきたいと思っております。

個別避難計画については、長年の課題でありましたというか、今も課題であります。なぜ進まないのかというと、やはり役場の方で人がいない、色々な仕事をしている中でなかなかそこまで手が回らないという実情と、どういったものを作っていいか分からない、どうやって作ったらいいか分からないという、その2つが大きな阻害要因ということで、先ほどから話がありましたように、県の方でも社会福祉協議会とタイアップして、市町村の個別事情に応じて、その地域で個別避難計画を作る、どういう人が作っていくのか、役場の人にやってくださいと言っても無理ですので、その地域でA委員のように活躍していただける人を使っていきたいと思いますよ、といった、具体的な進め方を支援するサポートチームを社会福祉協議会とタイアップして来年度から作ってやっていこうとしております。そういった中で、阿南市において30数%まで上がったのであれば、それを逆に阿南市ではこういうやり方をしたからできた、上がったということをサポートチームの方にも教えて伝授していただいて、それを県下に広げていけたらいいなと思っておりますので、これからもよろしくをお願いしたいと思います。

それから、C委員から来年度の組織改革の中で南部が置き去りになるのではないかという不安があるというお話もいただきました。先ほども説明があったのですが、今回の組織改革につい

て、どういうところからこれをやろうということになったのかと言いますと、18年前に南部総合県民局を作って、その作った時には「地域完結型の総合機関」ということで南部と西部に県民局を置いたのです。ただ、そう置いたことによって地元の市町村や関係団体、住民の皆様方と膝を交えて話すような機会が増えたとか、連携が深まったというメリットはあるのですが、予算等の面で考えますと、例えば観光も西部にも南部にも観光の担当があります。万代庁舎の本庁の方にも観光スポーツ文化部というのがある、そしたら観光スポーツ文化部など本庁の組織は東部だけのことを考えてあとは南部や西部に任せていいのかとなると、やはりそこは県全体のことを考えるのです。危機管理についても観光についても。そしたら、南部・西部の話がダブってくるのです。予算も観光スポーツ文化部の方が色々要求していく、その中には南部や西部に関連することも入ってくるということで、地域完結型で2つ置いたのですが、実際にやってみるとどうしてもダブってくるという二極化する部分が出てきて、特に防災や観光などでどちらが主役なんだという話がずっと出てきましてね。人口減少もある中で、この際もっとスリムというか、もう少し分かりやすく、しかもスピーディに物事が予算的にも実行的にも施策展開でもできる体制をとということで、県民局という組織を見直して、今の事務所をそれぞれの観光スポーツ文化部なり危機管理部なりの指揮下に入る組織とすると。ただ、県民局を作ってメリットとして感じている現場との密着の部分は、「地域連携事務所」という形で南部庁舎、美波町において、そこには観光の担当、防災の担当も置くということで、これまでの県民局のメリットと少し上手いかなかった点を、今回先ほど説明したような形で「地域連携事務所」を置きながら、縦のラインを強くしてやっていこうということです。決して置き去りにするのではなく、観光なり危機管理の県全体の中でしっかりと南部・西部の予算なり体制を確保していくということでやっていこうと思っておりますので、また来年度以降、県がやったことについてここをもうちょっと変えて欲しいというようなことがありましたら、また御提言いただきましたら組織改編に対応していきたいと思っております。過去のこれまでの反省を踏まえた今回の組織改革ということで受け止めていただけたらと思っております。

それからE委員からお話がありました、花火を含めた企業周年イベント等のお話ですが、色々な地域の花火や祭りが衰退してきているというのは過去からも言われておりますが、どうしても自治体の予算も町内会の予算も少なくなってきた、人も少なくなってくるという中で、今までの祭りや花火を守っていこうとすると、どうしてもジリ貧になっていくという状況の中で、やはりおっしゃられたような企業の力を入れていくということが、「にし阿波の花火」などを見ても大事だと思いますし、キッチンカー協会を活用してという話もありましたが、キッチンカー協会も「自分達の出番をもっと増やしてくれ、場面があったらどんどん行くよ」という話も聞いております。そういったこともあって県マルシェなども今一生懸命しているのですが、企業も毎年毎年と言ったらなかなかしんどいので、10周年、20周年などの記念の時にイベントに乗っかっていくということは十分可能性もあります。県の方でも今募集しておりますが、高校生の海外留学の応援ということで「トビタテ！留学JAPAN」などの応援事業も、高校生を2週間や2ヶ月海外に派遣するという事業も予算を取ってやっているのですが、これも県費だけでやっているのではなく、企業からお金を頂いて、企業からの協賛金と文科省のお金を合わせて、企業に賛同していただいてやっております。地域のイベントや祭りに企業周年事業みたいな形で民間のノウハウや資金を入れていくということは、これからの行事を維持あるいは発展していく上で不可欠な要素なのだろうと思います。

それからD委員からお話があった、プロポーザル事業でどうしても南部あるいは西部が少し不利だったというか、そういうところがあるという御指摘ですが、確かにプロポーザル事業等

で、ある程度地域性も配慮しながらはしているのですが、数や規模という面ではやはり徳島市中心部などが採択されやすいという部分は否めない現状はあるかと思えます。ですからその辺は今後プロポーザル事業をやる時に、地域枠ではないですが、南部枠や西部枠などがある程度設定して、小さくても光るような事業をきっちりと選んでいくということを忘れてはいけないのだろうと改めて思いました。

それから最後に、K委員からお話があった、自然が活かしきれていない、活用と保全が結びついていないというお話は、確かにその通りだと思います。ただ、その辺のお話は東部の方ではなかなかない話ですので、これから御論議いただいている計画も、県全体の「徳島県新未来創生総合計画」の中に溶け込んでいくようになるのですが、その中でおっしゃられたような自然の活用と保全を結びつけていくような取組というのは、やはり南部ならではの取組として重点的に計画の中に位置づけていくということが必要なのだろうと思っております。そうすることによって、企業版あるいは個人版のふるさと納税をその事業の財源として獲得していくということも可能になっていくと思えます。選択という話もありましたが、やはりこの南部らしい、南部ならではの取り組みは重点的に県計画の中で位置づけるということが重要なのだろうと思えます。

色々申し上げましたが、体制も変わりますけれども、今までこの南部・西部で県民局の中で地域に密着して御意見をいただいてきて、それを計画に反映させていくということは、これからの新しい体制、また県全体の計画の中でもそこは変わりません。逆に、今までよりも県全体の予算取り、南部・西部の位置づけをより明確に打ち出せると思っていたらと思いますし、言ったこととちょっと明確にできていないぞということであればまたおっしゃっていただければ、そういう形で新しい体制を築いて進めていきたいと思っておりますので、今後とも御意見を頂戴できればと思います。これからもよろしく願いいたします。

#### 【局長】

委員の皆様並びに市町の皆様におかれましては、最後まで熱心な御議論をいただきまして、重ねて御礼申し上げます。ただいま志田副知事からも決意が述べられましたが、職員一同としましても、組織の名称や形が変わろうとも、引き続き現場を預かる者として、皆様と手を取り合いながら南部振興に邁進する覚悟でございます。今後とも変わらぬ御指導をお願いいたします。それでは、以上をもちまして、令和7年度第2回徳島県南部地域政策総合会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。